

製品・サービス動向-国内**■ライフサイズ、SaaS型ビデオ会議クラウドサービスを発表**

米ライフサイズ(米国テキサス州)は、SaaS型ビデオ会議サービス「Lifesize クラウド」を日本市場向けに都内にて発表。サービス開始は7月から。(取材:5月29日)

Lifesize クラウドは、「Lifesize Icon」など国際標準に準拠したビデオ会議システムのほか、スマートフォン/タブレット、パソコン、固定/携帯電話から会議に参加できるHDビデオ会議サービス。1対1の通話のほか多地点会議や資料共有を交えた会議も行える。

Lifesize クラウドに接続する端末は、ファイアーウォール内であれ、公衆インターネットであれセキュアかつシームレスにサービスに接続し、他の端末とビデオ会議が行える。スマートフォン/タブレット・パソコンからは専用の「Lifesize クラウドアプリ」を使用するか、それぞれに搭載されたWebRTC対応ブラウザ(Google Chrome バージョン28以降)により接続が可能だ。

コールする際には、煩雑なIPアドレスの入力など行う必要はなく、端末画面に表示される共有ディレクトリー(プレゼンスも対応)に表示されている相手や会議室を選択するだけですぐに通話を始められる。即時会議や予約会議いずれにも対応している。ユーザ数は最小25から最大は1,000端末まで拡張できる。ゲスト(無制限)も招待できる。なお、Lifesize クラウドサービスに接続する端末のソフトウェアアップデートも自動で行われるという。

Lifesize クラウドのユーザが行うことは、まずLifesize.comでアカウントを開設する。そして会議に必要なアプリや端末の設定をごく簡単にした上で、会議室にログインするだけだ。

「セットアップは、たとえばApple TVと同じくらいとても簡

単だ。ユーザにとって煩雑なインフラの管理や運営などはライフサイズ社が全て行う。」(CEO Craig Malloy氏)

同氏によると、これまで主流であったオンプレミス型のビデオ会議システムは、膨大な設備投資や専用のIT管理が必要だったにもかかわらず、拡張が難しく、またユーザ体験も満足のものではなかったという。しかし一方で、いつでも、どこでも、どんなデバイスからでもつながり、しかも、あらゆる企業がその規模に関係なく活用できるビデオ会議に対する需要が急速に高まってきているという。また、会議室だけでなく、ホームワーカーや外回りの営業、他の場所にいるグループに簡単に接続したいというニーズも増えてきている。

「従来型のオンプレミス型ビデオ会議システム、Web会議システム、無料のコンシューマビデオチャットなどは、ビジネスユーザが本当に必要なもの、本当に望むものを提供していないと考える。それらに対してLifesizeクラウドは、本物の“コネクテッドエクスペリエンス”を提供する。」(CEO Craig Malloy氏)

Lifesize サービスの利用料は、25ユーザ/月額25ドル(年額7,500ドル)から。日本での費用もほぼ同程度という。日本国内のライフサイズ販売代理店が販売する。加えて、サービス利用にかかわるサポートも販売代理店より提供するという。

今回の発表にあわせて、同社国際担当バイスプレジデント Andreas Wienold氏により、日本、アメリカ、シンガポール、オーストラリアを多地点ビデオ会議で結んだLifesizeクラウドのデモンストレーションも行われた。デモンストレーションでは、東京にあるLifesize Icon端末を使用して、クラウドサービスのセットアップから相手をコールし、多地点会議や資料共有するところが披露され、セットアップや操作

の簡単さをアピールしていた。



デモを行う同社インターナショナル担当バイスプレジデント Andreas Wienold 氏 (写真: ライフサイズ)

同社は 2003 年設立当初から“Universal Connectivity Service”というコンセプトでクラウドサービスの在り方について検討を重ねてきていたという。当時は H.323 (IP) や H.320 (ISDN)、電話などを統合したサービスコンセプトだったが、それが 11 年の歳月をかけて最新の技術などを統合し具現化したのが Lifesize クラウドだという(詳細は同社の Lifesize blog で紹介されている)。Craig Malloy 氏は、Lifesize クラウドは、ライフサイズ社としては新しい時代の幕開け(A New Era)と言い切る。同社としては満を持しての発表のようだ。

lifesize.

LifeSize Cloud に合わせて発表された同社の新しいロゴ (写真: ライフサイズ)

今回、Lifesize クラウドをワールドワイドに開始するにあたって、品質の高いビデオ会議サービスを提供するために、世界にある IBM クラウドデータセンターのうちの 5 カ所(北米、欧州、アジア)に Lifesize クラウドのサーバを設置しているという。

また、Lifesize クラウドのエンジンは同社がすでに販売している大規模分散環境・仮想化技術などに対応したビデオ会議プラットフォーム「Lifesize UVC」をクラウドに最適化させた上でプラットフォームとして使用している。

ライフサイズ社としては、オンプレミスからクラウドへ完全に舵を切るわけではなく、今後も、ユーザのニーズに応じて、オンプレミスソリューションもクラウドサービスも並行して提供していくとしている。

ライフサイズ社は、VTEL やポリコムなどで実績がある Craig Malloy 氏らで 2003 年設立(テキサス州オースティン)。2005 年には業界初の HD ビデオ会議システムを発表し、以後、革新的なビデオ会議ソリューションで市場をけん引してきた。日本市場には 2006 年参入しこれまで 2,000 社以上の企業に導入されている。ワールドワイドの顧客数は約 15,000 社、販売店数は約 1,800 社、端末出荷台数は 121,000 台以上という。なお、2009 年には Logitech 社(日本:株式会社ロジクール)傘下に入り HD ビデオ会議製品のラインナップを拡充した。ライフサイズ日本オフィスは東京都港区虎ノ門のロジクール社内にある。

■VTV ジャパン、テレビ会議端末操作タブレットソフトウェア「EazyTouch」の新バージョンをリリース



EazyTouch 操作画面(写真:VTV ジャパン)

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、自社開発製品のテレビ会議端末操作タブレットソフトウェア「EazyTouch(イージータッチ)」のバージョン 2.5 を 5 月 29 日にリリースした。(5 月 29 日)

EazyTouch は、統一された直感的に利用できる GUI とテレビ会議端末のマニュアルをタブレット上にまとめることで、ユ

ユーザをメーカーや製品毎に異なる面倒な操作から解放することを目的に開発されている。

特長としては以下の通り。(1)簡略化されたGUIとマニュアルを内蔵しているため、初めてテレビ会議に接するユーザも簡単に操作できる。(2)マルチベンダー対応のため、拠点毎にテレビ会議端末が異なっても同じように操作が可能となっている。(3)サーバで一元管理されるアドレス帳は同一ネットワーク上のテレビ会議端末で共有できる。(4)ライセンスとタブレットを追加することで簡単に増設ができる。

2011年9月の発売以来、ユーザが求めるニーズをヒアリングしながら、案件ごとにさまざまなカスタマイズ対応や機能向上を行ってきた。

VTV ジャパンでは、さらに快適なテレビ会議環境を実現できる製品の提供を行っていきとしている。

■IIJ グローバルソリューションズ、ビデオ会議端末とゲートウェイ機能をパッケージ化したビデオ会議サービスを発表

株式会社 IIJ グローバルソリューションズ(東京都千代田区)は、クラウド型マネージドビデオ会議サービス「COLLABO de!World(コラボ デ ワールド)」のラインナップを拡充し、ビデオ会議サービス「クイックスタートパック」を発表。(6月3日)

クイックスタートパックは、ビデオ会議端末(シスコ社製)とゲートウェイサービスをパッケージ化して提供するもので、業界最安値の1端末あたり月額25,000円～。Web会議と同程度の価格帯で、高品質かつ安全に利用できる。また、クラウド基盤上でビデオ会議システムを管理しているため、ユーザは端末をインターネットに接続するだけですぐに使える。

パッケージは、「タイプ10」と「タイプ20」を提供。モニターやインターネット回線はユーザ側での用意となる。ただし、オプションとして提供することも可能。価格は税抜価格。

なお、今回のクイックスタートパックの提供開始に伴い、キャンペーンおよび無料トライアルを実施する。キャンペーンは9月末日まで。詳細は同社に確認。

パッケージ構成および利用料金

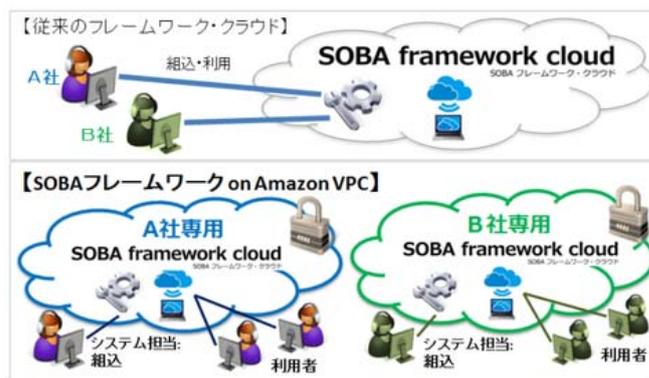
	タイプ 10	タイプ 20
ビデオ会議端末(レンタル)	Cisco TelePresence SX10 Quick Set	Cisco TelePresence SX20 Quick Set 2.5倍ズーム
インターネット接続ゲートウェイ		○
アドレス帳管理		○
ビデオ会議端末保守		センドバック保守
障害対応		○
使いかサポート		○
多地点接続機能(MCU)	×	内蔵多地点機能 (自拠点含む4拠点まで接続可能)
デュアルディスプレイ	×	○
初期費用	40,000円	
月額費用	25,000円/1台	44,800円/1台

パッケージ構成および利用料金(表:IIJグローバル)

COLLABO de! World は、ビデオ会議システムをIIJのクラウドサービス「IIJ GIO(ジオ)サービス」の基盤上で提供するクラウド型マネージドビデオ会議サービス。世界50か国以上で利用することが可能。ビデオ会議システムの設計から端末調達、導入、運用、ヘルプデスクまでのワンストップで提供する。ユーザ側が自社で設備投資をすることなく最新のビデオ会議システムをサービスで利用できる。

■SOBA プロジェクト、プライベートクラウド対応版「SOBA フレームワーク・クラウド on Amazon VPC」を発売

株式会社SOBAプロジェクト(京都市下京区)は、プライベートクラウド対応版「SOBA フレームワーク・クラウド on Amazon VPC」を6月3日に発売。(6月3日)



利用イメージ(SOBAプロジェクト)

SOBA フレームワーク・クラウドは、2013年9月に開発・提供開始したウェブ制作者向けサービス。Web会議などの双方向のライブ通信に必要なパーツをクラウドに用意し、ユー

が自身が映像配信や音声機能などを選んでウェブサイトにも組み込む開発者向けツールを提供している。

「映像音声パーツ」、「スライドパーツ」、「テキストチャットパーツ」、そして「録画パーツ」(近日公開予定)の各機能がある。Windows、Mac、Android、iOS に対応しており、PC、タブレット、スマートフォンなどからアクセス可能。

従来は専門技術が必要であったが、同ツールにウェブ制作の知識があれば簡単に双方向ライブ通信機能を構築できるようになっている。ウェブサイトにビデオチャット機能を追加したり、会員向け対面コンシェルジュサイトなど、アイデア次第で新しいウェブサイト制作が可能になっている。

その中で、企業内の情報共有など重要情報を双方向ライブ通信でやり取りするウェブアプリケーションを制作する場合、セキュリティ面の強化を求める声が多かったことから、プライベートクラウド版の発売を決定し、今回、世界トップシェアのひとつである Amazon.com 社のウェブサービス「Amazon VPC」対応版の提供を開始することになった。

費用は初期費用と月額利用料からなる。まず、初期費用は100万円(税別、以下同)となっている。導入時サポート等を含む。一方、月額利用料(利用時間により金額が異なる)は、~7,500分までが50,000円、また、~20,000分までが100,000円。

■NTT コミュニケーションズ、「Arcstar Conferencing」のグローバル展開と新機能追加

NTT コミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)は、会議サービス「Arcstar Conferencing(アークスターコンファレンシング)」の新機能を追加するとともに海外での販売を開始。(6月13日)

NTT コミュニケーションズでは、会議系サービスとして、現在、「Video Conferencing(ビデオ会議)」、「Web Conferencing(Web会議)」、「Audio Conferencing(電話会議)」、「Event(オンラインイベント)」の4サービスを提供している。

今回の新機能追加は2点ある。

(1) Web 会議サービスと電話会議サービスの連携機能:

Web 会議サービスの音声は主にインターネット回線を使ったIP電話を利用しているが、あらたに一般電話回線(PSTN)を選択可能とした。

(2) 電話会議サービスにおけるコンシェルジュ機能:会議に接続できない参加者向けのオペレータによる「オンライン接続サービス」や、参加者の呼び出し・ミュート操作などの使用方法を利用している言語でリアルタイムにサポートする「コンシェルジュ機能」を追加。電話機の「*0」を押すだけでオペレータがトラブルを解決するとしている。

NTT コミュニケーションズは、2014年1月にグループに加えた、Arkadin International 社(フランス パリ)のサービス基盤や、多言語による会議系サービスのサポート力を取り入れながら、香港・マレーシアから海外での Arcstar Conferencing の販売を開始し、以降グローバル市場に拡大していく。

■フロム・ナウ、通話をしながら、画面共有が行えるコミュニケーション・プラットフォーム「VoxyPAD」提供開始

株式会社フロム・ナウ(東京都港区)は、米 VoxyPAD 社製インタラクティブ・コミュニケーション・プラットフォーム「VoxyPAD」(ボクシーパッド)を発表。(5月14日@Press News)



VoxyPAD(写真左:フロム・ナウ@Press News)は、タブレット上で、通話だけでなく、相手と読み・書きなどの基本的な機能を全

て同時に共有・同期できる機能を備えているコミュニケーション・アプリ。Web上の地図情報や写真、Microsoft Office 製

品や PDF のドキュメントなど、さまざまな情報を双方で同時に画面共有し、二者間で同一画面を操作、手書きによる書き込み・編集など行える。加えて、クラウド上のストレージサービス Dropbox などに保存しているデータにアクセスし、ド



キュメントを上書き、共有する機能もある。

(左写真: フロム・ナウ @Press News)

その他、自動翻訳機能(10 か国)、グループチャット(20 名まで同時参加)、ビデオ

通話(双方向)、課金機能なども提供している。

現在は、iPad と iPad mini 向けの提供となり、今後、iPhone/Android にも対応する予定となっている。

VoxyPAD 提供にあたっては、「プレミアム版」、「追加オプション機能」、「ビジネス用途モデル」を提供している。なお、プレミアム版については、30 日限定で無料ダウンロードで利用することができる。

一方、企業・ビジネス向けには以下を提供している。(1) セキュリティやデータ保護を強化したカスタマイズ・アプリの提供。(2) 対面販売や個別相談などで活用できる、EC(電子決済)を搭載したセミカスタムモデル。(3) 専用利用を希望の企業・団体向けに、専用サーバ/プラットフォームにて専用管理型フルカスタム化したビジネスモデル。

フロム・ナウは、VodyPAD の日本国内代理店。販売・保守運用・技術サポートなどを提供している。

ビジネス動向-海外

■StarLeaf 社、ZTE Cloud Service と戦略的パートナーシップ提携、中国の SMB 企業を対象とした ZTE ブランドによるクラウドサービスを提供

StarLeaf 社(イギリス、ロンドン)は、ZTE Cloud Service(中

国)と戦略的なパートナーシップを締結したと発表。(5 月 29 日)

今回の提携によって、ZTE Cloud Service が、中国国内の SMB ユーザ企業(1400 万社)を対象に、ZTE 社のブランド「StarMeeting」で、StarLeaf 製品とサービスを提供する。

中国国内の何百万もの企業にとってビデオ会議を身近なものにするためには、クラウドサービスによる提供が最適であると判断した。また、この提携によって、両社に急速な売上の拡大をもたらすとともに、中国国内のビデオコラボレーション市場でのリーディングポジション獲得に貢献すると期待している。

ZTE Cloud Service は、「StarLeaf Service Provider Platform」を自社のデータセンターに設置する形で、サービス提供としてはマルチテナントに対応する。StarLeaf のビデオ会議端末も StarMeeting ブランド名で提供される。なお、対応端末は、StarLeaf 端末以外に、「Microsoft Lync」、シスコ、ポリコム、ライフサイズの各端末・クライアントのほか、H.323 や SIP、PSTN に対応している。

導入・利用動向

■「世界経済フォーラム ジャパン・ミーティング 2014」で、全世界 12 ヶ所からブイキューブで同時生中継

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、世界経済フォーラム(WEF)のジャパン・ミーティング 2014(6月2日開催)で、ビジュアルコミュニケーションサービス「V-CUBE」を利用いただいたと発表。(6月5日)

今回、ニューヨーク、ボストン、サンフランシスコ、北京、上海、ソウル、シンガポール、ブタペスト、ジュネーブ、バルセロナ、ロンドン、東京の世界12か所から参加するトップリーダーたちを、東京の会場とV-CUBEで結び、世界のさまざまな問題に「結集した知性で洗礼なく課題に立ち向かう」というテーマで各討論が実施された。



世界経済フォーラム ジャパン・ミーティング 2014

(写真：ブイキューブ)

ブイキューブによると、世界的な国際会議では、高いセキュリティと世界中からリアルタイムに遅延することなく安定した議論ができるコミュニケーションインフラであることに加えて、参加者のITリテラシーの差、インターネット回線、パソコンやタブレット端末といった利用環境の違いに左右されることのない、専用端末や専用ソフトウェアのインストールが不要で利用することができる環境が求められているという。

そういったことに対して、V-CUBE は、多言語で誰でも簡単に利用することができるだけでなく、世界中と安定した接続が可能な「Global Link」や、言葉の異なるトップリーダーたちを多言語でサポート可能な体制についても、深い信頼を得たという。

今後も、このような国際的な規模で開催される会議やセミナーにおいて、主催者も参加者も安心して討論やセッションに集中できる、安価で高品質なサービスの提供をすすめていくとしている。

World Economic Forum Japan Meeting 2014

<http://www.weforum.org/events/japan-meeting-2014>

■エルナー、既存システムを活用し、低コストで9拠点をつなぐテレビ会議を実現

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、エルナー株式会社(神奈川県横浜市)へ、アバイア社のテレビ会議システム「Avaya SCOPIA XT5000」を販売し、6月10日に導入事例をVTV ジャパンホームページに公開した。(6月10日)

ワールドワイドに、コンデンサやプリント回路といった電子部品を製造・販売しているエルナー。同社では、国内および

海外の拠点間のコミュニケーションをテレビ会議システムで行っていたが、既存のテレビ会議システムだと最大4拠点までしか対応していない。そこで、接続できる拠点数をふやすため、新たなコミュニケーションインフラの構築を検討していた。



本社会議室の風景 (写真：VTV ジャパン)

当初は、専用MCUを検討していたが、必要とする機能やコストの面から、VTV ジャパンが、テレビ会議端末にオプションの内蔵MCU(最大9拠点)をつけることで、要件を満たした低コストで安定したテレビ会議システムを提案。事前に既存システムとの互換性などの検証や接続テストなどを行い、さらに実機を持ち込んでの検証を経て、導入に至った。

現在、エルナーのコミュニケーションインフラとして安定して実稼働している。Avaya SCOPIA XT5000を導入したことで、テレビ会議の利用が増加しており、今後のシステム増設の計画も立ち上がっているという。

エルナー株式会社 <http://www.elna.co.jp/>

セミナー・展示会情報

<国内>

■アバイア・モバイル・コラボレーション・セミナー

日時：東京6月24日、札幌6月27日

会場：大阪(グランキューブ)、福岡(TKPガーデンシティ博多)

東京(ベルサール八重洲)、札幌(アスティ45内ACU会議室)

主催：日本アバイア株式会社

詳細・申込：http://www.ibma.jp/avaya_event/

■【“見える”カレッジ】Web会議サービスの活用法とメリットとは～スマートフォンやタブレットとWeb会議を組み合わせる業務改革～

日時:6月18日(水)14:00～16:30(受付:13:30)

会場:ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/134>

■ビデオ会議 新技術デモンストレーション&セミナーのご案内

日時:6月27日(金) 13:30～16:30

会場:ベルサール九段(東京都千代田区)

主催:株式会社メディアプラス

詳細・申込:

http://www.mediaplus.co.jp/news/2014/0530/images/seminar_tech.pdf

* StarLeafとPexipの最新機能のデモを中心とした内容を予定。

■BIG PADを活用したクラウド型Web会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時:7月2日(水)/7月23日(水)14:00～16:00

*4月以降9月まで毎月2回開催

会場:シャープ株式会社 東京支社

主催:シャープビジネスソリューション株式会社

詳細・申込:<http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■Polycom Day:『Microsoft Lync コミュニケーションに臨場感を!ポリコムで簡単に広がる』

日時:7月11日(金) 15:30～16:30(受付:15:15)

会場:ポリコムジャパン 新オフィス(東京都新宿区)

主催:ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込:<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニューズメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になるとと思われる情報を精査したうえで配信しています。皆さまの情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行):各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパン直接取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):定期レポートであつかっている各社からのプレスリリースや直接取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp>「情報配信について」をご覧ください。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

先週のInterop Tokyo 2014では、シスコ、ファーウェイ、Eyeball Networks、ヤマハ、HPなどで遠隔会議システム関連の製品やソリューションが展示されていました。

今週は、ラスベガスでInfocomm 2014が開催されます。北米からは新製品など数多くの発表が届くかもしれません。期待したいと思います。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介